

# 3月定例会議会特集その2

先週の市議団ニュースでは、橋本竜一議員の代表質問を紹介しましたが、今週号では、鈴木一彦議員の一般質問の主な内容を紹介いたします。

## 根室の貴重な自然・歴史等の保護と活用について

根室市には、全国的にみても貴重な自然や考古学の資料、また、比較的歴史の浅い北海道の中では歴史が古く、特に日本の近代史の上では、ロシアとの交流をはじめとする興味深い史料が多数あります。鈴木議員は、これらを根室の魅力として大いに内外にアピールし、まちづくりのツールの一つとして活用すると同時に、しっかりと保護活動も行っていかなくてはならないという観点から質問を行いました。

2月22日、根室在住の考古学者北構保男氏より、考古学上の貴重な資料が根室市に寄贈されました。



市では、記念の年ということで、演奏会など様々な事を企画していますが、鈴木議員は、市政執行60年に合わせて「北構コレクション」の特別展示を文化会館多目的ホールで行ってはどうかと提案しました。しかし、資料が膨大なだけに、現在行っている整理、登録作業が間に合わず、作業を中断しての展示はできないことから、60周年に合わせた特別展示は困難であるとのこと

す。来年以降の開催が検討される模様です。

## 市総合文化会館には、作者名が明らかに

作者名が明らかに、200点を超える芸術作品が所蔵されていますが、そのほとんどは、普段、倉庫に眠っている状態です。これまで数回、所蔵美術展が開催されていますが、鈴木議員は「アピールが不足しているのでは」と指摘。今まで以上に積極的にアピールするとともに、ホームページで作品の一覧を公開することも提案しました。

ホームページ上で作品の写真などを公開するのは、著作権などがあり困難とのことですが、作者と作品名の一覧を公開するだけでもアピールになると考えます。

鈴木議員はまた、特別会議室などに常時展示されている作品については、もし観覧希望者がいれば、その室が使用されていない時に限り対応するように求めました。

## 教育問題について

2018年度から小学校で、19年度から中学校で道徳が「教科化」されます。

民主主義社会の道徳とは、個人の尊厳と人権を互いに尊重することを基礎においたものです。そうした道徳は、上から「こころあるべきだ」と押し付けることはできないはずで、自由な雰囲気のもと、多様な価値観が認められる中で、様々なことを経験し学習することによって、自主的判断で選び形成していくものではないでしょうか。学校で、現実に自分たちが直面している問題を解決する学級活動、子どもたちが自身が行事などの自治的活動を大切にしていくなかで、道徳の形成が図られるように、市民道徳の形成は、学校生活全体で支えるものであり、その一つである「道徳の時間」も自主性が重要です。鈴木議員は、そうした立場に立って、道徳が「特別の教科」となるにあたって

根室市の道徳教育の在り方について、寺脇教育長の見解を求めました。

教育長は、道徳の指導内容については発達段階を踏まえた体系的系統的な編成がはかられるとともに、問題解決的な学習や体験的な学習などの導入により、指導方法の工夫・改善がはかれるところであり、また、児童生徒がいじめの問題などに真正面から向き合うなど、生命を大切にすることや他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等を自分自身の問題として受け止めるほか、自分と異なる意見と議論する中で「考え、議論する道徳」の授業の実現が求められているところであり、今後は、「特別な教科・道徳」の授業を要しながら、学校の教育活動全体を通して子どもたちが自分の生き方を考え、主体的な判断のもとに行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基礎となる道徳性を養いたいと答えました。